

有限会社 おとべファーム

■ 乙部町の農業をリードする中心的な担い手



〈法人の概要〉

所在地:〒043-0111 乙部町字烏山 843

代表者:代表取締役 大川勲

構成員:4名(構成農家4戸)

役員:2名 常時雇用者:4名

設立:平成10年11月 資本金:915万円

事業内容:畑作、野菜/直売所、直販

作付作物:水稲8ha、大豆13ha、小豆7ha、馬鈴しょ7ha、
ハトムギ6ha、ブロッコリー10ha、かぼちゃ4ha、
スイートコン、ゆりね、さといも、トマト、アスパラ他

経営面積:74ha

売上高:1億1,528千万円(H21年) 交付金も含む

電話:0139-62-5056

URL:http://www.tobe-tobe.com/otobe_farm/

〈法人のあゆみ〉

平成10年	有限会社おとべファームを設立(構成員の個別経営を残したままで法人経営をスタート)
12年	アスパラガスの立茎栽培を導入
14年	個別経営を無くして法人経営のみで再スタート 代表に大川勲氏が就任 いちごの高設栽培を導入
15年	ハウス作物の選別所に直売所を設置
17年	ブロッコリーを導入
21年	ハトムギを導入
22年	食用ゆり根、アスパラガスのインターネット販売を開始

〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・平成10年6月の新はこだて農協合併をきっかけに、農協理事を構成員として7戸の農家が参加して、同年11月に農業生産法人を設立した。設立当初は、水稲21haを中心に馬鈴しょ18ha、ビート11ha、トマト、きゅうりを作付し、売上高は4,922万円であった。
- ・構成員の個々の経営を残したまま法人経営を運営していたが、数年で経営が破綻。平成14年に個人経営を無くして法人経営のみで、代表取締役に現在の大川勲氏が就任し、再スタートした。
- ・収益性を高めるために、平成14年に、いちごの高設栽培導入をはじめ、平成17年にブロッコリー、平成21年にハトムギを導入するなど積極的に新規の高収益作物を導入し展開していった。また、平成15年には、ハウス作物の選別所に直売所を設置。平成22年には、食用ゆり根、アスパラガスのインターネット販売も開始している。
- ・乙部町の農業をリードする中心的な担い手として、地域の離農跡地の集積先として、また、新規就農者の育成を図る受け皿として取り組むことを目標にしている。

〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・運転資金の確保が大きな課題であったが、町から運転資金の提供を受けた。
- ・法人設立後の法人運営、資金提供、栽培技術、経営指導などは、主に町と相談して進めてきた。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・やり方によっては収益が高くなる。
- ・税制や制度資金の優遇が受けられる。
- ・対外的な信用力が高まる。
- ・福利厚生に係る経費などの人件費負担が大きい。

〈法人が継続するためのポイント〉

- ・情報収集を的確に把握し、経営に反映させること。
- ・収益を高めるには、いま、どんな新規作物の導入したら最適なのか、また、各種の支援措置などの情報を的確に把握することが必要で、農業改良普及センターや町の指導の支援も必要。
- ・有能な人材育成、後継者の確保、従業員の作業効率化を検討し、人件費を抑えることが必要。

〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・複数戸で法人化を進めるのであれば、中途半端に個人経営を残すよりは、退路を断つぐらいの覚悟で、完全協業法人化を目指すべきである。

〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・設立当初は、水稻、馬鈴しょの生産が中心であったが、経営の安定化を図るため、先進的な新規作物（アスパラ立茎栽培、いちご高設栽培、ブロッコリー、食用ゆり根、さといもなど）を積極的に導入している。
- ・直売所の開設や、食用ゆり根などのインターネット販売に取り組んでいる。

〈経営目標と将来の展望〉

- ・乙部町の中核農家として自立した経営を行う。
- ・地域の離農跡地の集積先として、積極的に規模拡大にも取り組んでいき、地域農業を守っていきたい。
- ・新規就農者の育成を図る受け皿として、就農支援に取り組んでいきたい。
- ・新規作物の積極的な導入を展開していきたい。

〈視察の受入〉

詳細については要相談。

連絡先: 0139-62-5056 (担当:代表取締役 大川勲)